

楽しい！わかる！「北の森カルタ」の開発

北海道森林管理局 森林整備部 技術普及課 一般職員 ○宮本 萌樹
渡島森林管理署 一般職員 今野 莉緒
(元 北海道森林管理局 森林整備部 技術普及課)

1 課題を取り上げた背景

木育教材はたくさんありますが、北海道の森林・林業や国有林を紹介したものは少ないのが現状です。そこで、北海道民に向けた森林環境教育（木育）の新たな教材として子供用（小学3年生前後）と大人用（中学生以上）を対象とした2種類のカルタを試作・開発し、北の森カルタを通じて遊び学ぶことにより、北海道の森林・林業についての理解や知識を深め、木材利用に対する関心や環境保全への理解を高めるため、「森林への親しみを持つ」ことにつながることを目指します。

2 取組の経過

「北の森カルタ」の制作は、子供用（小学3年生前後）の目的としては、遊びを通じて、動物や、林業機械等を紹介することにより「かわいい」や「かっこいい」と森林に親しみや興味関心を持ち、木を使うことが森を守る事や、森林や林業について新しい知識を得ることで、自ら考えることにつながる工夫をしています。

大人用（中学生以上）の目的は、森林や林業の基礎はもちろん、一步踏み込んだ内容を取り入れることで、森林の保全と木材の利用促進が地球環境の保全に対してどのようにつながるのか、わかりやすい工夫をしています。

3 実行結果

カルタは、林業、生態系、文化、など8つのテーマに分類し様々な観点から興味を持ってもらえる内容にしています。読み札については、子供用は小学3年生の漢字を調べ、ふりがなを振っています。絵札は自然の美しさをそ

のまま表現するため全て写真を使用し、そのほとんどが森林管理署の職員が撮影した地域性のある写真（写真）となっています。カルタの読み札と絵札については道産木材の樺化粧板を使用し、木の温かみを感じさせ木材利用のPRにもなっています。



(写真：北の森カルタ（絵札）)

また、イベントの来場者や、森林環境教育に関心のある小中学校の先生・生徒にアンケートを実施し、アンケート項目の「北の森カルタを通じて森林への親しみを感じましたか」、「北の森カルタを通じて林業について初めて知ったことはどの程度ありましたか」という質問に対し高い評価を得たことから、カルタを通じて知識や情報がしっかり伝わっていることがわかりました。

その他には「木の種類を知ることができ興味が湧いた」「写真が綺麗」「絵札のひらがなが小さい」「語呂が悪く改善して欲しい」「専門用語が難しい解説本がほしい」という感想や改善点、取り入れたら良い内容などの意見をいただき、「北の森カルタ」の改善をしています。

4 考察

今後の方針としては、親と子供という視点で製作した解説本の有効性が明らかになりました。引き続き小学校の先生や森林環境教育に関わるNPO、森林インストラクター、木育マイスターが活用しやすいよう、内容の充実やイベントプログラムの事例の作成を想定しています。

「北の森カルタ」の普及には、カルタと解説本をセットでPRすること、カルタを使用した教育プログラムの提案が大事だと考えています。